

渡り鳥保全調査報告 1991年度

—都市鳥の生息状況—

福井県自然保護センター¹

はじめに

人間活動と自然保護の調整は難しい問題であるが、野生生物保護のためには生息環境の保全や保護区の設定などを行なうことが必要である。そのためには、科学的データが不可欠であり、少なくとも基礎となる生物相を把握しておくべきであろう。

福井県では、湖沼・河川の水鳥について1969年よりガンカモ科鳥類生息調査を、また様々な環境の鳥類について1977年度より渡り鳥保全調査を継続している。渡り鳥保全調査は、県内の鳥類相の把握を目的としているため、各年度に対象環境を変えて越冬期と繁殖期に実施されている(福井県野鳥保護協会 1979, 1980, 福井県鳥獣保護センター友の会 1981, 1983, 1986, 福井県県民生活部自然保護課 1989, 福井県自然保護センター 1993)。しかし、それらの環境は鳥類の本来の生息地のみであり、人工的な環境での調査はなされていない。

東京、大阪などの大都市では、スズメ *Passer montanus*, ムクドリ *Sturnus cineraceus*, ハシトガラス *Corvus macrorhynchos*, ドバト *Columba livia* などがその個体数を増加させ、人間の出した残飯を漁ったり、建築物を糞で汚したり、電柱や鉄塔に営巣したりするために人間生活とのトラブルが生じてきた(唐沢 1987)。この、いわゆる「都市鳥」の問題は、大都市だけでなく全国の地方都市でも例外ではない(都市鳥研究会 1988)。そこで、1991年度は、福井県内における都市鳥類相の生息・繁殖状況について調査を行なってみた。この結果は、将来、都市鳥の動向を分析したり、都市の自然公園作りの際に役にたつであろう。

調査地と方法

調査は、1991年5月5日～7月7日まで、福井県内の主な20カ所の市街地で、それぞれ2回行なった(図1, 表1)。調査地内に1.6～6.0kmのラインを設定し、鳥類が出現しやすい朝方に歩いて、出現したすべての鳥類の種、個体数を記録した。

また、繁殖状況をA:「営巣・育雛などを確認したので確実に繁殖している」、B:「若鳥を確認したので繁殖していると思われる」、C:「さえぎり活動が認められたので繁殖の可能性はある」、D:「生息の確認はしたが、繁殖については何とも言えない」の4段階に区分して記録した。その中でAまたはBの状況であった場合にその種が繁殖していると判断した。

1. 〒912-01 福井県大野市南六呂師169-11-2

執筆者: 大迫義人

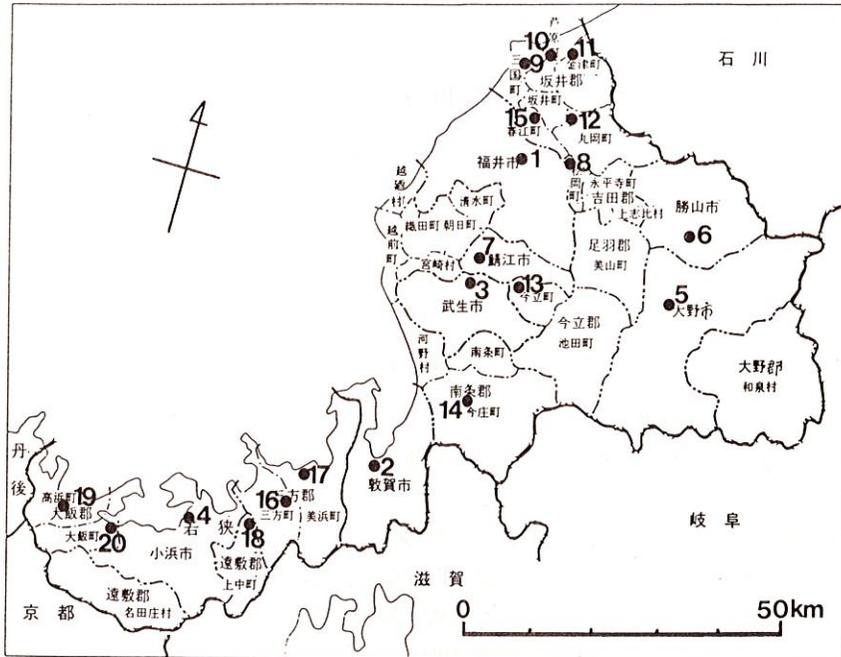


図1. 調査地の位置図.

Fig. 1. Location of the study areas.

表1. 平成3年度(1991)の渡り鳥保全調査の概要.

Table 1. Study areas, observers, dates and general result of 1991 bird census.

調査地名 ¹	メッシュ番号 ²	調査者	調査日	平均調査 距離(km)	総種数	平均 個体数
1. 福井市	589	吉村 芳武	5/19, 6/18	6.0	19	292
2. 敦賀市	805,806	久保上 宗次郎	6/28,30	2.0	9	20
3. 武生市	671,672	高田 雄治	6/29,30	2.0	17	73
4. 小浜市	1060,1074	山崎 芳昭	6/19,26	2.0	22	57
5. 大野市	259	榎本 二郎	5/10, 6/23	3.0	12	81
6. 勝山市	228	柳町 邦光	5/25, 6/15	2.5	14	107
7. 鯖江市	631,632	八田七郎右エ門	5/28, 6/26	2.0	15	77
8. 松岡町	436,472	榎本 二郎	5/13, 6/23	2.0	6	57
9. 三国町	653	池崎 和男	5/19,26	3.0	15	133
10. 芦原町	615	北川 賀文	5/11,15	1.7	13	60
11. 金津市	542,543,579	古畑 重義	6/16,7/7	3.0	22	225
12. 丸岡町	468,469	阪本 周一	5/25, 6/14	2.0	25	166
13. 今立町	560,561	横山 大八	5/12, 6/23	2.2	18	103
14. 今庄町	606,642	門前 孝也	5/19,26	1.6	12	25
15. 春江町	548,585	池崎 和男	5/23, 6/16	3.4	12	196
16. 三方町	961,962	辻 義次	6/9,16	2.0	13	42
17. 美浜町	921,922	田辺 幹雄	5/5, 6/16	2.0	10	103
18. 上中町	990,991,1006,1007	高橋 繁忠	6/15,16	2.5	26	43
19. 高浜町	1139,1147	栗野 和美	6/28, 7/4	2.5	13	163
20. 大飯町	1109,1120	山崎 芳昭	6/7,21	2.0	22	77
計	20カ所	17人	40日		10目25科53種	

1: 図1を参照.

2: 福井県自然環境管理計画で用いるメッシュ番号.

結果と考察

記録された種とその学名および個体数を表2に掲載した。

計10目25科53種の鳥類が記録された(表2)。福井県の鳥類は1982年までに18目54科274種が確認されているが(福井県 1982), 種数で19.3%が記録されたことになる。これらのうち環境庁指定の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の希少種として鯖江市, 丸岡町でチュウサギが, 今庄町でオンドリが記録された。

また, 計7目17科24種の鳥類の繁殖が確認された(表2)。しかし, 調査時期が多くの鳥の繁殖期であったため, その確認がなくても繁殖の可能性はある。

すべての市街地で記録されたものはツバメとスズメで, 以下, 60%以上の出現カ所が高かった順にトビ, ハシボソガラス, セグロセキレイ, カワラヒワ, アオサギ, ヒヨドリ, ムクドリ, ハシブトガラスであった。アオサギを除く種はすべて都市鳥であり(唐沢 1987), 繁殖も確認された。これらの鳥類にとって, 市街地には餌となる人間の残飯, 街路樹の実や昆虫類が存在し, また営巣場所となる街路樹, 電柱, 鉄塔や建物などが存在している。さらに都会の人間ほど鳥類の存在を無視するため人間を恐れなくなっていることも彼らの生息を可能にしていると考えられる(唐沢 1987)。

主に水帯や移水帯を生息地とするサギ類, ガンカモ類, シギ・カモメ類が計10種(18.9%)記録された。福井県内の市街地の調査地周辺には, 海岸, 河川, 湖沼や水田が広がっており, 市街地を通過または一時的に出現したものと考えられる。その他, キジ類, ホトトギス類, フクロウ, イワツバメ, サンショウクイ, ウグイスを除くヒタキ類, カケス, オナガなどのように1, 2カ所ですら記録されなかった鳥類は, それらの生息地から考えて単なる通過個体として記録されたと考えられる。一方, ハクセキレイは, 県内では冬鳥であったが, 1982年よりその確実な繁殖が確認されており, 種として留鳥になる可能性がある(上木 1993)。

最も記録種数の多かった調査地は上中町で, 26種であった。次いで丸岡町, 小浜市, 金津町, 大飯町などで20種以上が記録された。これらの市街地は, 周囲を山地に囲まれているため森林性鳥類の記録種数が多かったと考えられる。このように, 従来, 山地性の鳥類であった種が, 各市街地で多く記録されるようになったことは, 野鳥の都市化が進んでおり, 将来もこの傾向が続くものと考えられる。これからも定期的な調査が必要であろう。

最近, 都市の自然環境を復元したり, 拡大しようとする取り組みがさかんになってきている(亀山 1992)。都市の鳥類が, 時に人間生活とトラブルを起こすことがあっても, 野生動物が人間と共存していることは望ましいことである。問題は, 生息できる種が限られ, その個体数が多くなることである。都市生態系という今までになかった系であっても, ある程度完結しているし, また消滅させることはできないものである。そうであれば, より多様性の高い, 安定した系にしてゆくことが求められるであろう。

謝 辞

現地調査を17人の方に行なっていただいた(表1)。ここに記して感謝する。

表2. 福井県の市街地における繁殖期の鳥類リストとその記録個体数(1991年).

Table 2. List and number of birds recorded in summer in urban habitats, Fukui (1991).

目 Order	科 Family	種名 Species	学名 Scientific name	福井市 6.0km	敦賀市 2.0km	武生市 2.0km	小浜市 2.0km	大野市 3.0km	勝山市 2.5km
コウバク	科	コウバク	<i>Nycticorax nycticorax</i>	1.0			1.5	0.5	
		アマビ	<i>Bubulcus ibis</i>						
		チュウキ	<i>Egretta intermedia</i>						
		コキ	<i>Egretta garzetta</i>			1.0			
		アキ	<i>Ardea cinerea</i>	2.0	0.5	0.5	0.5		
ガン	ガン	オドリ	<i>Aix galericulata</i>						
		カモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	3.5					
		カモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	*7.5			1.0		
ワカ	ワカ	ヒ	<i>Milvus nigrans</i>	1.5	2.0	1.0	6.0	1.5	1.5
		サバ	<i>Butastur indicus</i>				0.5		
キジ	キジ	シ	<i>Banbusicola thoracica</i>						
		キジ	<i>Phasianus colchicus</i>						
クサ	クサ	クサ	<i>Nunepius madagascariensis</i>						
		クサ	<i>Larus canus</i>						
ハト	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	2.0		0.5	1.5	1.0	1.5
		ハト	<i>Columba livia</i>	*42.0	*7.0	*6.5		3.0	
ホト	ホト	ホト	<i>Cuculus canorus</i>					0.5	
		ホト	<i>Cuculus saturatus</i>						
		ホト	<i>Cuculus poliocephalus</i>						
フクロ	フクロ	フクロ	<i>Strix uralensis</i>						
キツ	キツ	キツ	<i>Dendrocopos kizuki</i>			0.5	1.0		
スズ	スズ	スズ	<i>Alauda arvensis</i>			*1.5			
		スズ	<i>Hirundo rustica</i>	*30.5	*4.0	*11.5	*1.5	*22.5	*24.5
ヒトリ	ヒトリ	ヒトリ	<i>Hirundo daurica</i>		1.5			*9.5	*4.5
		ヒトリ	<i>Delichon urbica</i>					3.5	
		ヒトリ	<i>Motacilla cinerea</i>				*2.0	*4.0	0.5
		ヒトリ	<i>Motacilla alba</i>						
		ヒトリ	<i>Motacilla grandis</i>	2.5		*2.5	0.5	0.5	*3.5
サシ	サシ	サシ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>						
		サシ	<i>Hypsipetes anaurotis</i>	2.5		1.0	*9.5		3.5
モズ	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>				0.5		
		モズ	<i>Monticola solitarius</i>				0.5		
ヒタ	ヒタ	ヒタ	<i>Turdus cardis</i>						
		ヒタ	<i>Turdus chrysolaus</i>						
		ヒタ	<i>Cettia squameiceps</i>					0.5	
		ヒタ	<i>Cettia diphone</i>					4.5	
		ヒタ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>						
		ヒタ	<i>Ficedula narcissina</i>						
		ヒタ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>						
		ヒタ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>						
		ヒタ	<i>Aegithalos caudatus</i>						2.0
		ヒタ	<i>Parus varius</i>						
		ヒタ	<i>Parus major</i>	*4.0		0.5	*3.5		*5.5
		ヒタ	<i>Zosterops japonica</i>				2.5		
ホシ	ホシ	ホシ	<i>Emberiza cioides</i>	0.5			12.0		3.0
		ホシ	<i>Carduelis sinica</i>	5.0	1.0	*5.0			7.0
ハシ	ハシ	ハシ	<i>Eophona personata</i>	1.0		0.5			
		ハシ	<i>Passer montanus</i>	*105.0	*5.0	*38.5	*1.5	*27.5	*37.0
ムク	ムク	ムク	<i>Sturnus cineraceus</i>	*36.0		*3.0		*12.5	6.5
		ムク	<i>Garrulus glandarius</i>				0.5		
カス	カス	カス	<i>Cyanopica cyana</i>	2.0					
		カス	<i>Corvus corone</i>	*56.0	2.5	*4.5		0.5	6.0
		カス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	*29.0	*2.0	0.5	1.5		
10目	25科	53種							
				19種	9種	17種	22種	12種	14種

*: 繁殖の確認された調査地.

調査地と調査距離

靖江市 2.0km	松岡町 2.0km	三国町 3.0km	芦原町 1.7km	金津町 3.0km	丸岡町 2.0km	今立町 2.2km	今庄町 1.6km	春江町 3.4km	三方町 2.0km	美浜町 2.0km	上中町 2.5km	高浜町 2.5km	大飯町 2.0km
1.0 1.5 0.5 2.0 0.5					*4.0 *1.0 *3.5 *3.5		0.5 0.5 1.0	8.0 6.5		1.0		0.5 0.5	0.5 1.5
		1.0		1.0				0.5				*2.0	
1.0	*4.5	3.0	2.0	*3.0	9.5 2.0	*1.0		0.5	2.5 0.5 0.5	15.5	*1.0 0.5	34.0	0.5
		0.5 1.0											1.0
												27.0	
1.0		6.0 *1.5	2.5 19.0	4.5 *9.0	3.5 2.5	0.5 1.0		3.5 *2.5		11.5	0.5	*3.0	0.5
											1.0 1.0		1.0
											*0.5 0.5		2.0
			0.5	1.5		*0.5			0.5		0.5 0.5		
*14.0	*15.0	*35.5	6.5	*44.0 3.0	*14.0	*15.0	*10.0 *2.0	*29.5	*10.0 0.5	*31.0 1.0	*5.5	*24.0	*2.0
					2.5 2.0 1.0	*1.5	*1.5				0.5		
2.5	0.5			*6.0	1.0	*7.0	*2.5	*2.0	*2.0	5.0	*0.5 0.5	2.0	1.0
5.0		2.0	5.0	*12.5	19.0 0.5		1.0		4.0 0.5	4.0	7.0 0.5		*11.0
						0.5					0.5 0.5 3.0		7.0
				0.5 0.5	1.0	0.5							0.5 0.5 0.5
					6.5 *4.5				3.0		1.0 2.0		*7.5 0.5
		1.5	*4.5	*2.0 1.0 1.0	*4.5	*1.0					1.5		2.0 1.0
1.0		1.0	1.0	*5.5 *9.0	*10.0 *11.5	*1.0 *5.0	1.0 0.5		*1.0 0.5	3.0	*3.0 2.0	9.0	8.0 9.0
*30.5 7.5	*22.0 *12.5	*39.0 *30.5	*23.5 *7.0	*75.5 *40.5	*25.5 16.5 2.5 1.0 4.0	*37.0 *26.0	*3.0	*44.0 *92.5	*14.0	*28.5	*4.0	*58.5 0.5	*9.5
*6.0 2.5	*2.5	*6.5 5.0	1.5 5.5	9.0 2.0		*4.0 1.0	1.0	*3.5 *5.5	*2.5	1.0 13.0	*1.5	4.5	*9.0
15種	6種	15種	13種	22種	25種	18種	12種	12種	13種	10種	26種	13種	22種

要 約

1991年の夏期に、福井県内の計20カ所の市街地で鳥類相を調査した。計10目25科53種の鳥類が記録された。これらのうち環境庁指定の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の希少種として鯖江市、丸岡町でチュウサギが、今庄町でオシドリが記録された。また、計7目17科24種の繁殖が確認された。都市鳥としてトビ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラスの生息と繁殖が確認された。福井県内においても野鳥の都市化が進んでおり、これからの動向が注目される。

引用文献

- 福井県. 1982. 福井県の鳥獣. 240pp. 福井県.
- 福井県県民生活部自然保護課. 1989. 渡り鳥保全調査報告書～昭和61年度から63年度までの記録～ 10pp. 福井県.
- 福井県鳥獣保護センター友の会. 1981. 昭和55年度渡り鳥保全調査報告書 17pp. 福井県.
- 福井県鳥獣保護センター友の会. 1983. 渡り鳥保全調査報告書～昭和56年度及び57年度の記録～ 8 pp. 福井県.
- 福井県鳥獣保護センター友の会. 1986. 渡り鳥保全調査報告書～昭和58年度から60年度までの記録～ 10pp. 福井県.
- 福井県野鳥保護協会. 1979. 昭和53年度渡り鳥保全調査報告書 12pp. 福井県.
- 福井県野鳥保護協会. 1980. 昭和54年度渡り鳥保全調査報告書 15pp. 福井県.
- 福井県自然保護センター. 1993. 渡り鳥保全調査報告－1989年度・1990年度－. *Ciconia* 2 : 1－13.
- 唐沢孝一. 1987. マン・ウォッチングする都会の鳥たち. 261pp. 草思社.
- 亀山章. 1992. 環境復元のデザインと手法 3.1 都市環境. 杉山恵一・進士五十八 編. 自然環境復元の技術. pp.47－66.
- 都市鳥研究会. 1988. 都市に生きる野鳥の生態. 155pp.
- 上木泰男. 1993. 1973年から1993年までの福井県におけるホオジロハクセキレイの観察. *Ciconia* 2 : 15－18.

Urban avifauna in Fukui
 -Result of 1991 bird census-

Fukui Nature Conservation Center¹

The summer avifauna and breeding status were studied at a total of 20 cities and towns in Fukui in 1991. A total of 53 bird species of 24 families of 10 orders was recorded in a total of 40 days, of which 24 species bred. There were recorded Intermediate Egrets at Sabae City and Maruoka Town, and Mandarin Ducks at Imajo Town as rare species that Environment Agency has registered. The breedings of Black Kites, House Swallows, Japanese Wagtails, Brown-eared Bulbuls, Oriental

Greenfinches, Tree Sparrows, Gray Starlings, Carrion Crows and Jungle Crows were recorded. There is a tendency that birds can breed in urban habitats, so the avifauna should be monitored in Fukui.

1. Fukui Nature Conservation Center. Minamirokuroshi 169-11-2, Ono-shi, Fukui 912-01

Written by Yoshito Ohsako.

